

ART KISS

LETTER Vol. 71

2015 早春



熊本アートパレード副団長の三橋末雄さん

巻頭言

棒安坂の熊本城

熊本城についてあらためて造形的に見る機会がありましたので、ここであまり注意が払われてこなかった視点について触れてみます。熊本城は、よく知られているように、東西南北と見る方角により全く異なった様相を見せます。とりわけ、石垣が重層し深い奥行きをもつ南側の竹の丸からの天守閣は、空気が張り詰め、最もダイナミックで劇的な景観となっています。城の造形の極致とも言える南からの景観に比して、北に関しては地形の難しさもあつてか、観光客は少なく、あまり語られることはありません。この北側では、小天守が主役となり、急な勾配で有名な棒安坂の登り口に、木々の間をぬって、真正面とも言えるその全容が現れます。旧国道三号線から二の丸広場に通じるこの坂は、鬱蒼とした木々を背景とし、今では若者たちが体力を鍛える場所となっています。その後ろには大天守が控えています。棒安坂からはそれは隠れて見えません。そのふたつの完全な姿を見るには、そこからかなりの引きが必要になります。旧国道三号線をさらに上がり、京町の入口に磐根橋が架かっています。その橋の下は県道玉名線が走り、橋の片隅から急斜面を階段で降りていくことができます。その階段途中で大天守と小天守双方の、ややスリムで正に秀麗な全容を見ることができました。そこは城からの距離感も良く、稀有の視点と言え、北からのすぐれた景観でありましたが、残念ながら今では高層ビルが連立し、視角はごく限られています。ここ数年の大きな変化です。

美は形に属すと言われますが、熊本城の壮大な形を生み出した無数の人々の間には、ある美意識が共有されていたと思われ。デジタル化しグローバル化して、世の中はますます物質感が希薄となつていますが、成長し変容するまわりの樹木群とともに、熊本城は、比類なく強固な存在感を放っています。

熊本市現代美術館館長 桜井武

詩の朗読会

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

詩の朗読会 第133回

テーマ「クリスマス」

2014.12.25



クリスマスの朗読会ということと、クリスマスの生まれた日を祝福する作品が多く発表されました。幼い頃を思い出してのつべい汁とクリスマスケーキが同じ食卓に並んだ家族とのクリスマススを詩にした方、クリスマスケーキを

カットして口に運ぶまでを臨場感をもつて詩にされた方、恋人同士の会話をモチーフに朗読劇形式の作品を発表した方、さらにハーモニカや美声でクリスマスソングを披露された方もいらっしゃいました。また2014年最後の詩の朗読会だったこともあり、2014年をふりかえり俳優・高倉健さんの死を悼んだ方や、クリスマスに亡くなったチャップリンについて朗読された方もおり、亡き人たちに思いを馳せる詩も印象的でした。参加者の皆さんと、クリスマスらしい賑やかかつ穏やかな時間を過ごしました。【参加人数14人】

テーマ「鉛筆(筆記具)」

2015.1.22

開催中の「鉛筆のチカラ」展に関連して、「鉛筆(筆記具)」をテーマに、10名の方が詩を発表しました。鉛筆のひとりごとを詠んだ詩から始まり、芯の素材感について



の作品、情景的な作品まで、色々な詩が詠まれました。中でも、美術家・赤瀬川原平さんの展覧会(作品)を観て作られた詩や、歌手・美空ひばりさんの「二本の鉛筆」

の歌詞は新鮮で、アーティストと鉛筆の結びつきに面白さを感じました。普段は無意識に使っている鉛筆も、モノクロならではの世界観を感じることで、鉛筆の良さが何倍も広がる会となりました。(N・H)

【参加人数10人】

CAMKEESの活動

美術師ホントリア・CAMKEESのキンキーによる活動紹介

テーマ「クリスマス」

2014.12.20



今回のテーマは「クリスマス」。読みがたりポランティアさんもサンタ姿で登場しました。絵本「ツリーさん」や「クリスマスはドキドキ」の他、クリスマスにちなんだ絵本やシフォン遊びを紹介しました。参加してくれた子どもたちも最初は少し緊張した様子でしたが、次々に登場する絵本や紙芝居に興味津々。最後のおてだまを使った手遊び「さよならあんころもち」には、

の作品、情景的な作品まで、色々な詩が詠まれました。中でも、美術家・赤瀬川原平さんの展覧会(作品)を観て作られた詩や、歌手・美空ひばりさんの「二本の鉛筆」

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・18時より 無料 定員90名

上映リスト

(12/7~2/8)

- 12月8日「ギブアンドゴー」2008年 日本映画 70分 *日本語字幕付き
- 12月15日「推手」1991年 台湾、アメリカ映画 105分
- 12月22日「くるみ割り人形」2010年 イギリス、ハンガリー映画 108分
- 1月5日「キートンの歌劇王」1932年 アメリカ映画 81分
- 1月12日「フェアリーテイル」1997年 イギリス映画 98分
- 1月19日「嵐が丘」1939年 アメリカ映画 104分
- 1月26日「黙して突れ」2010年 ベネズエラ映画 97分
- 2月2日「みすゞ」2001年 日本映画 105分 *日本語字幕付き

テーマ「にっぽんの行事」

2015.1.17



新年最初の読みがたりは、絵本「まめのかぞえうた」や手遊び「もちっこやいて」などを紹介しました。ヒツジのパン屋さんが登場する絵本「ひつじばん」では、

みんな笑顔で参加してくれました。(K・O) 【参加人数18人】

おいしいようなパンがたくさん。キリンのお客さんには長いフランスパン、ゾウのお客さんにはふかふかの大きなパン、次はどんなパンができるかなと子どもたちがワクワクしていると、ヒツジの形をした可愛らしいパンが完成! 子どもたちも思わず笑顔になりました。他にも、遊び歌で馴染みのある「あぶくたつた」は、絵本でメロディに乗せてお届けしました。(Y・M) 【参加人数30人】

テーマ「春よこい」

2015.2.7

2月に入り、暦の上では春を迎えました。今回のテーマは「春よこい」。詩「はいはいたいそう」の可愛らしいリズムで始まり、絵本「いっしょだよ」や紙芝居「てぶくろをかいに」などをお届けしました。パネルシアター「こんこんくしゃん」では、小さいマスクに大きいマスク、長いマスクなど色々な動物に合わせたマスクが登場し、愉快なメロディを歌いながら、最後は「こんこんくしゃん」とくしゃみでマスクが飛んで行ってしまいます。その様子をとても楽しそうに眺めていた子どもたち。大人も一緒に心温まる時間となりました。(N・H) 【参加人数34人】



ミュージック・ウエーブ

【参加人数60人】

CAMK冬のピアノ コンサート vol.16

2014.12.14

CAMKピアノボランティア有志による、冬のピアノコンサート vol.16が開催されました。今回は10名が参加し、ラフマニノフやショパン、そして自作の即興曲などを披露していただきました。会場からは「ブラボー」の声もあり、盛況の内にコンサートを終えることができました。

当館ホームギャラリーにて毎晩19時から30分間、ピアノボランティアによる演奏を行っています。それが知らなかったという方も多く、ボランティア活動を幅広く知っていただく機会となりました。また、ボランティアの皆さんは普段の活動ではそれぞれお一人での演奏ですが、今回は共演を通してボランティアさん同士の交流の場ともなりました。(H・T)



STREET ART-PLEX KUMAMOTO協働事業
On the corner 「鉛筆のチカラ」音楽の場合：會田瑞樹 打楽器リサイタル」

2015.1.25



STREET ART-PLEX KUMAMOTO

の協働事業として、若手打楽器奏者・會田瑞樹さんによる「鉛筆のチカラ」音楽の場合：會田瑞樹 打楽器リサイタル」を開催しました。このコンサートは「鉛筆のチカラ

木下晋・吉村芳生」展にちなみ、音楽を通して、「鉛筆」のチカラを表現したものです。「鉛筆」と音楽家の関係を會田さんが語り、作曲家たちが手書きした楽譜の作品から5曲が披露されました。大震災の鎮魂の祈りが込められた曲「Azuma-ha-ya for solo percussionist」では、奏者の「あづまはや」の歌声に膜質打楽器やゴングが鳴り響き、本編ではヴィブラフォンの鍵盤を弓で擦って幻想的な音が奏でられるなど、様々な音色を楽しんでいただきました。また、作曲家の國枝春恵さんのピアノ演奏とともに、今回のリサイタルのために作られた「Corridors of Light III for Vibraphone and Piano」(作曲：國枝春恵)が初演され、会場からはたくさんの拍手が送られました。(Y・M) 【参加人数100人】

VOL.24

ホームギャラリーからのお便り 「花よりも小さく」



著者：星野富弘
出版：偕成社 2003年

あなたの好きな花は何ですか？

今回は、ホームギャラリーより星野富弘さんの詩画集「花よりも小さく」をご紹介します。

星野さんは、若くして不慮の事故により頸髄を損傷し、手足の自由を失ってしまいます。しかし、人生を諦めることなく口で筆をくわえて詩画を描き始め、その作品は多くの人の感動を呼びました。本書は、そんな作品を集めた「花の詩画集」シリーズ

全6巻の4作目です。個人的に「花」よりも「小さく」というタイトルには、星野さんの生命に対する思いが一番明瞭に表現されていると思います。

震える線や、思い切った引いた線一本一本で繊細に描写された野の花の姿は、どれも一目で力強い生命力を感じさせ、その素朴さゆえの儚さまでも見事に表現されています。添えられた詩は、作者の心の微塵をそのままに感じ取れるような、共感しやすい言葉で踊り、長い詩にもたった一言の詩にも、気取った様子はありませぬ。ごまかしのない赤裸々な激情を読み取ることができるとは、星野さんが花に持たせた控えめでも強かな姿勢と生命に対する熱い思い、落ち込んでいた気持ちを前向きにしてくれ、時には緩んだ気持ちを引き締めしてくれ

す。誰しも、道端の野花を観察したことがあるのではないのでしょうか。上手い下手はともかく、自分らしい線と色で描いてみると、思いがけない感情に気付いたり、忘れていた懐かしい気持ちと向き合ったりできるかもしれません。(K・F)

新春福引

2015.1.4

2012年より開催している当館の仕事始めとしての新春福引、今年も前年より200人増しで779名が参加されました(総来館者数1033名)。毎年参加されるリピーターの美術館常連ファンも多かったですが、今年の傾向としては、家族連れや、友人同士などの若い世代も多く目立ちました。来館者と全職員とで、お正月の晴れやかなムードのもと直接会話を交わす中で、当館の過去の展示会の鑑賞の思い

出をお聞きする機会もあり、温かなエールを沢山いただくことができました。

(H・T) 【参加人数779人】



「鉛筆のチカラ 木下晋・吉村芳生」展

「瞽女唄を聴く」

2014.12.21



鉛筆のチカラ展の関連イベントとして「瞽女唄(ごぜうた)を聴く」を開催しました。演奏していただいたのは、小林ハル瞽女唄保存会の須藤鈴子さんと室橋光枝さんのお二人。最後の瞽女として活躍され、木下晋さんの作品のモデルでもあった小林ハルさんから、直接瞽女唄の手ほどきを受けられた方々です。瞽女唄とは、視覚障害をもつ女性が生活手段として三味線を片手に各地を巡った伝統芸能のひとつ。演奏では、涙を誘うような別れの唄から、滑稽な掛け合いの「瞽女万歳(ごぜまんざい)」までをお楽しみいただきました。瞽女唄を初めて聴かれるお客様も多く、たくさんの方に瞽女唄の魅力を知っていただくことができました。(E・Z)

【演目】

- 1・門付唄 岩室
- 2・段物 葛の葉子別れ
- 3・段物 八百屋お七「忍びの段」
- 4・瞽女万歳 柱立て

【参加人数 110人】

鉛筆のチカラ展

プレママ&ファミリーツアー

2015.1.10



鉛筆のチカラ展のプレママ&ファミリーツアーを行いました。今回は、3組の親子がご参加くださいました。身近な「鉛筆」を使って、とても細かな所まで丁寧に描かれた作品を親子でお楽しみいただきました。会場内にある10Hから10Bの鉛筆を体験できるコーナーでは、鉛筆のそれぞれの違った描き心地に子どもたちも夢中でした！(A・S)

【参加人数 8人】

鉛筆のチカラ展

CAMKレクチャーカレッジ

2015.1.11



担当学芸員による鉛筆のチカラ展レクチャーカレッジを開催しました。木下晋さんの当館での出品歴やモデルとの関わり、吉村芳生さんの作品の変遷や展示風景などを紹介しました。

「たまたま美術館

に来て作品を観る前にイベントで展示の説明があっていたので、ちょうどよかったです。また参加したいと思いました(30代・女性) (アンケートより) (E・Z) 【参加人数 60人】

鉛筆のチカラ展

ナイトツアー

2015.1.14&17



近隣商店街の皆さんをお招きしてのナイトツアーを開催しました。年齢層は20・30代の方が多く、初めて参加された男性の方も見受けられました。

「とても興味深い

作品でした。ナイトツアーがなければ見に来なかったと思うので、作品が観られて感謝しています。もう一度じっくり観てみたいと思います。友人知人にもおススメしたいと思っています。」(参加者アンケートより) (E・Z) 【参加人数合計 70人】

鉛筆画ワークショップ

「自画像を描く」

2015.1.18



鉛筆のチカラ展の関連イベントとして鉛筆画ワークショップ「自画像を描く」を開催しました。催しました。手鏡をご持参いただいたのに、「まずは鏡を見ずに自分を描いてください」という講師の木下晋さんの言葉にみなさん絶句。午前中は鏡を見ずに描き、午後は鏡を見

て描いた後、参加者それぞれが感想を述べ、木下さんが講評を行いました。日頃見慣れているはずの自分の顔がなかなか思いつけない、あるいは鏡を見ないで描いた顔の方が好きだ、という参加者の方も。「形にとらわれることなく自分と対峙し、描き続けてください」という木下さんの言葉に、みなさん大きく頷かれていました。

「鉛筆での基本的な描き方を教えていただけると思っていました。自分のありのままに描いてよいということも教えていただきました。自分の内面を見つめるためにもこれからも描いていこうと思います。」(アンケートより) (E・Z) 【参加人数 19人】

鉛筆のチカラ展

入場者1万人セレモニー

2015.1.30

この日、「鉛筆のチカラ 木下晋・吉村芳生」展の入場者数が1万人を突破しました！記念すべき1万人目のお客様は、甲佐町在住の会社員の男性でした。鉛筆のチカラ展をCMでご覧になり、初めて当館を訪れたとのこと。セレモニーでは、当館館長より記念の展覧会カタログが贈られました。(Y・M)





G III

ギヤラリーⅢ(GⅢ)は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

「パブルーム大学Ⅱ」展に関連して、展示に参加している劇作家の岸井大輔さんによるワークショップ「展示を見る」「展示を演じる」を行いました。会場で聞こえる「音」のサウンドスケープやそれぞれ気になる展示作品を通して自己紹介をするなど、演劇のメソッドを使いながら、作品や会場を読み解いていくスリリングな内容でした。後半はそれぞれ気になる参加者同士で「チームレポリション」「へそのお」「望遠鏡と内視鏡」「黄色い看板」の4グループを組み、短い劇やコントを作り発表。いずれも、年代や経歴も様々な初めて会った人同士が短時間で作ったとは思えない個性ある内容で、来場者からも大きな拍手が送られていました。(A・S)

【参加人数10人】

2015.2.1



アートバス

小学生の皆さんをバスで美術館にご招待しています

春日小学校 なかよし学級

2014.12.15



今回は春日小学校なかよし学級の皆さんがやってきてくれました。前半は、館内の展覧会の鑑賞をしました。鉛筆のチカラ展や生人形のリアル

川内倫子×熊本コラボレーション
「あなたの熊本、わたしたちの時代」
第1期撮影

2015.1.15-17

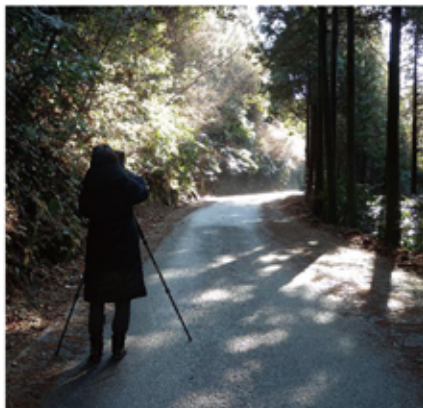
川内倫子×熊本コラボレーション「あなたの熊本、わたしたちの時代」の撮影が行われました。これは熊本の思い出の場所とそのエピソードを一般公募し、写真家の川内倫子さんがそのエピソードをもとに写真の新作を撮影するプロジェクトです。

第1期の募集で集まったエピソードより、阿蘇や金峰山、市内各所等で撮影が行われました。撮影の直前にも各エピソードをしっかり読み直し、高い集中力をもって撮影に望む姿は、緊張感に満ちたとても美しいものでした。今回の撮影にあたっては、「難しいなと思うものがほとんどで、何を見せたのかは現場に行かないとわからない。そこで何を見つけれられるかの挑戦だと思えます」という、今回のプロジェクトに対する意気込みをお聞きしました。また撮影中に「自分の昔の記憶を思い出しました」と川内

さに目を輝かせていました。

後半は当館キッズファクトリーで、水彩色鉛筆を使ったカード作り、とろとろ絵の具を使った混色遊びをしました。はじめは緊張した表情で取り組んでいた子ども達も、創作スイッチが入った途端、元気いっぱい次々と作品を完成させていきました。中でも大歓声があがったのは、大きな紙を使った絵の具遊びです。紙の上に絵の具とりのりを落とし、両手でまぜまぜまぜまぜ…。みんな初めのうちはドキドキ混ざっていた様子でしたが、徐々に隣のお友だちのスペースまでつながって、大きな一枚の絵に！普段できないダイナミックな絵が描けて、みんな満足そうでした。(K・O)

【参加人数9人】



さんが語る場面も。公募で寄せられた市民おひとりおひとりの大切な記憶のエピソードが、それを撮影するアーティストの記憶を揺り動かすという不思議を感じました。第2期の募集は、2月1日から3月22日までの期間です(詳細はHPまで)。一生に一度の川内倫子とあなたとのコラボレーション。この機会にぜひご応募ください！(H・T)

河原田隆徳/シヤニ・ペン・ハイム
ダンス公演「SALTY」&
高校生公開ワークショップ

2015.2.7



ホームギヤラリーにて、熊本市出身の河原田隆徳さんと、イストラエル出身のシヤニ・ペン・ハイムさんによるダンス公演を行いました。

前半は、鎮西高校ダンスコースの生徒を対象に演劇作品「SALTY」の振付を指導する公開ワークショップを実施。

後半は、お二人による「SALTY」公演が行われ、アフタートークでは、作品についての解説や制作についてお話しいただきました。「SALTY」は、神秘的な塩湖から塩を運ぶことを生業とするチベット民族のヤツクの動きが元になっています。重力を感じさせるグラウンディングな動きが印象的でした。(A・S)

【参加人数50人】



ART DE GYAN

アート・どぎやん。

※熊本弁でアートはどうなの？という意味です

第55回熊日書道展

熊本県立美術館・本館
熊本市中央区一の丸2
TEL 096・352・2111



県下で最大・最高といわれる書道展である。グラブプリの熊日賞は岩谷香代子さん（熊本市）のかな（世の中は）、知事賞は大森洗奈さん（熊本市）の漢字、熊本市賞は島田紀三子さん（山鹿市）の少字数書で、入選以上の190点と委嘱作家・無鑑査69人の作品が展示された。本展は県内書家の研鑽の場として毎年開催されている。今年も、漢字は真神麗堂さん（日展会員）、かなは土橋靖子さん（日展会員）という二人で審査された。来観者は会場の賑えられた墨線の美しさに見入っていた。（S・K）

2015.1.27-21

高山植物・山の絵 & 写真展

南阿蘇珈琲 大江店ギャラリー
熊本市中央区大江5・2・11・101
TEL 096・371・7807

木下美智子さんによる初の作品展。北アルプスの写真や高山植物の色鉛筆画が並んだ。趣味の山登りをきっかけに、山やそこで見つけた植物を写真に撮り始め、しだいに高山植物を描くようになったという。12色の色鉛筆を組み合わせたことで、表現したい色味を作り出し、たとえ思った色が出なくても色の個性を楽しみ、12色の無駄のなさに魅力を感じている。今後は、高山植物だけでなく山・鳥・虫と題材をふやし、挑戦していきたいとのこと。「アート文字」とよばれるデザイン書道も展示しており、表現への興味は尽きないようだ。またギャラリーを運営している珈琲店のパッケージも、作品展にあわせて木下さんの下絵を印刷し発売。あえて完成品ではなく下絵を印刷しており、購入者に色を塗ってもらおうようにとの思いが込められていた。（H・Ts）

2015.2.6-7



街なか子育てひろば 親子で作るフォトフレーム

子どもたちのためのイベントを開催しています



2014.12.11

Visitor's letter

来館者のみなさんからのメッセージ
アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します

「鉛筆のチカラ 木下晋・吉村芳生」展

- 鉛筆で絵を描きたくなりましたこの展示会があると知って、はやく見に行きたいと、とても楽しみにしていました。実際来てみてとても素晴らしい作品を見られて、感動しました。(市内・20代)
- とてもよかったです。何とも言いようのない思いになりました。もう一度来ようかと考えました。(市内・20代)

12月のワークショップは、家庭でよく見かける、かまぼこ板とアルミホイルを使ったフォトフレーム作りでした。最初にかまぼこ板にクレパスで色をぬり、手でクレパスをのべします。そうすると、板にクレパスが染み込み、風合いが増していきます。その後の飾り付けには丸めたアルミホイルにマジックで色をつけて好きな形に切り取ったものや、折り紙を使用しました。いずれも家庭にあるものを使用しましたが、そうとは思えないほどの完成度の高さでした。完成したフォトフレームは、自宅に飾るといふ方の他、七五三の写真を入れてプレゼントすると

いう方も。素敵な写真と合わせて、フォトフレーム作りも家族の思い出になるワークショップとなりました。今回は9組のご家族のほか、子育て支援ボランティア「子育てホットサポーター」6名と高校生2名もボランティアとして参加し、にぎやかなひとときを過ごしました。（H・Ts）【参加人数19人】

街なか子育てひろばイベント
親子ふれあい遊びと人形劇

街なか子育てひろばイベント
ワークショップ、1月は手あそび・人形劇を親子で楽しむイベントが開催されました。今回ご参加いただいたのは12組26名。楽しい音楽と一緒にお父さん・お母さんが演出する「はらへこあおむし」の読み聞かせでは、率先してお手伝いをする子どもたちの姿も見られました。また、お招きした講師の皆さんと一緒に、全身を使って親子で遊ぶ「せんたくもの」のあそびうたや、昔から親しまれている手あそびなどを行いました。参加した保護者からは、「子どもが嬉しそうだった。親子でできる遊びなので、ぜひ家に帰ってからまた遊びたい」との声も。人形劇が始まると、これまでではしゃいでいた子どもたちも一転、真剣にお話に聞き入り、心温まる物語のゆくえんを追っていました。（K・H）【参加人数26人】



2015.1.22

編集後記
今回のアートパレードのテーマは「私の日本の、世界の中の日本」。「今年のテーマは難しかった」という出品者の方が多かったですが、それぞれ思いの日本像が表現された作品群は、観ていて非常に興味深かったです。
ちなみに、「日本文化とは？」という話題になったときにぼくがいつも思い出すのは、坂口安吾の「日本文化私観」。「日本精神とはなんぞや、そういうことを我々自身が論じる必要はないのである」という、ちゃぶ台返しのような話から始まるこのエッセイ、よければ皆さんご一読くださいませ。
編集長 佐々木玄太郎

今年の「熊本市民美術展 熊本アートパレード」は、2日目の受付日が熊本城マラソンの日と重なったため、例年より少ない出品者でした。しかし受付初日の出品者の列は、まさにアートパレードといった雰囲気！次回こそは私も市民の一員として出品できたらいいなと思えました。
担当 大田黒翔代

〔執筆要覧〕*原稿の文末にイニシャル表記
兼城昌山(S・K)〔書道家〕
藏座江美(E・Z)〔熊本市現代美術館主任学芸員〕
富澤治子(H・T)〔熊本市現代美術館主任学芸員〕
坂本潤子(A・S)〔熊本市現代美術館主任学芸員〕
佐々木玄太郎(G・S)〔熊本市現代美術館学芸員〕
丸吉ゆかり(Y・M)〔熊本市現代美術館学芸員〕
平原奈津美(N・H)〔熊本市現代美術館学芸員〕
大田黒翔代(K・O)〔熊本市現代美術館学芸員〕
塚本春菜(H・Ts)〔熊本市現代美術館学芸員〕
林加央瑠(K・H)〔熊本市現代美術館総務アシスタント〕
古田香織(K・F)〔熊本市現代美術館総務アシスタント〕
ARTISTS LETTER ARTキレター
〒71早番号(2015年3月)【無料】
発行人：佐々木玄太郎 大田黒翔代
編集人：佐々木玄太郎 大田黒翔代
デザイン：石井克昌(MOTOSHIKI)
印刷：シモダ印刷
発行：熊本市現代美術館 <http://www.cank.or.jp>
〒860-0845
熊本市中央区上通町2-3
電話 096・278・7500
ファクス 096・359・7892

〔次号は初夏号(6月発行予定)〕

奨励賞

《桜の時～珪藻土アート～》は、珪藻土という新しい手法で新しい世界を創り出しています。桜を抽象化して表現しているところもおもしろいです。

《明かりのついた家》は、稚拙な表現技術ながら、伸び代を感じました。これからさらに展開していくことを期待したくなります。

《チャンキーチキン》は、自分で実際にかぶってみました。非常に楽しい気持ちになれる作品でした。

《神様だってはしゃぎたい》は、タイトルがとてもおもしろいし、神様がこのように遊ぶという発想もよいですね。

《今年の抱負》は、一般的な書とは異なる形式でおもしろいですね。前向きなメッセージもよいです。



桜の時～珪藻土アート～
作/あさだまりえ
〔部門/洋画〕



明かりのついた家
作/梶山真
〔部門/洋画〕



チャンキーチキン
作/渡辺真希子
〔部門/立体〕



今年の抱負 作/廣瀬央
〔部門/書〕



神様だってはしゃぎたい
作/江島成実
〔部門/その他〕

コラボレーターの会 特別賞

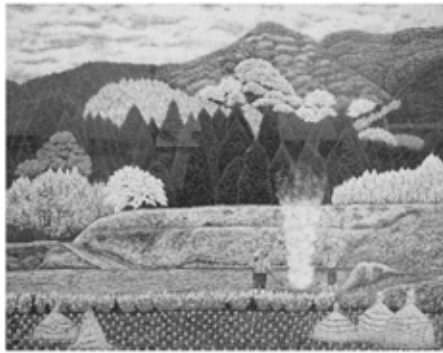
《日本は棲み良い》
ユーモラスでかわいらしい亀の姿が非常によかったです。見ていてほっこりする作品です。

*本作品は、コラボレーターの会の皆さんが選ばれました。



日本は棲み良い 作/武富誠一
〔部門/日本画〕

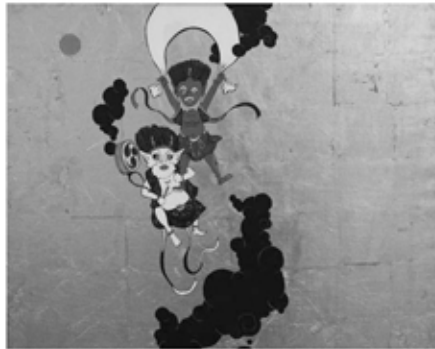




春・好日 作/角軍亀
[部門/日本画]



大日本干柿図 作/佐藤昌一
[部門/日本画]



風神雷神図
作/中原将貴
[部門/洋画]



都市標本 作/本田真介
[部門/写真]



粟島神社の春まつり 作/岡松宏泰
[部門/映像]



奨励賞

《春・好日》は、点描でかなりの時間をかけて描かれている作品かと思えます。確かな技術でしっかりと美しい日本を描かれています。

《大日本干柿図》は、非常に大胆でよいですね。技術的にもなかなかのものを感じます。

《風神雷神図》は、技術的にはまだ求められるものも多いですが、このような伝統的手法に挑んでみようという姿勢に非常に好感を持ちました。

《都市標本》は、都市をスナップした写真を編集した作品です。作者の都市のとらえ方、見せ方が非常におもしろいですね。

《粟島神社の春まつり》で紹介されている小さな鳥居をくぐるというようなお祭りは初めて見るもので驚きました。映像自体もよく作りこまれていると思います。

ごあいさつ

熊本市長
大西 一史



「熊本市市民美術展 熊本アートパレード」は、市民の皆様と共に創り、共に楽しむ「手作りの美術展」として親しまれ、平成元年の第1回開催から、今回で第26回目を迎えます。この間、市民の皆様から、合計10,611点ものご出品をいただいております。皆様の長年に亘る温かいご支援に、心から感謝申し上げる次第でございます。

さて、今回は、「私の中の日本、世界の中の日本」というテーマの下に、芸術を愛する幅広い年齢層の皆様から287点もの力作をご応募いただいております。作品に込められた作者の想いが直に伝わってくる展覧会となっておりますので、ご来場の皆様には、市民美術の競演をごゆっくりとお楽しみいただきたいと思います。

本市としましては、市民一人ひとりが心豊かに質の高い暮らしができる「誰もが憧れる上質な生活都市くまもと」を築くためには、このような市民の皆様から生まれる文化芸術の持つ創造性がますます重要な役割を果たすものと考えておりますので、皆様には、今後とも本市の文化振興になお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本展の開催にあたり、ご出品いただきました皆様、審査員の三浦末雄様、企画・運営にご協力いただきました「コラボレーター」の会「並びに「熊本市老人クラブ連合会」をはじめ、関係者の皆様は厚く御礼を申し上げますとともに、本展を通して市民の皆様が文化芸術活動がますます輝きを増し、相互の交流が一層深まりますことを心から祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

優 秀 賞

《夫婦旅行》はよく描きこまれています。また現在という時代もよく見えておられるというふうに感じました。

《きのう空をみた、あした空になる。》は、作品の「間」に日本的なものを感じます。自分なりに他者との関係なども考えて描いておられるのではないのでしょうか。

《さいきんのじえいけい》は、描かれている内容が他の世代の人にはすぐには理解できないくらいに、現代の若い世代の世界が非常によく表現されています。まさに日本の「いま」が表れた作品といえるでしょう。

《セビアの根子岳》はコラージュの手法によって根子岳を描き出すという、テクニク的にもよく考えられている作品です。説得力を感じました。

《地球の裏側》は、今の世界や日本をテーマとしたときに、地球の裏側というところから描くことで本質的なものに迫ろうとしていて、他の方々とは大きく違う発想が非常におもしろいです。独自の世界観を持っておられると感じました。



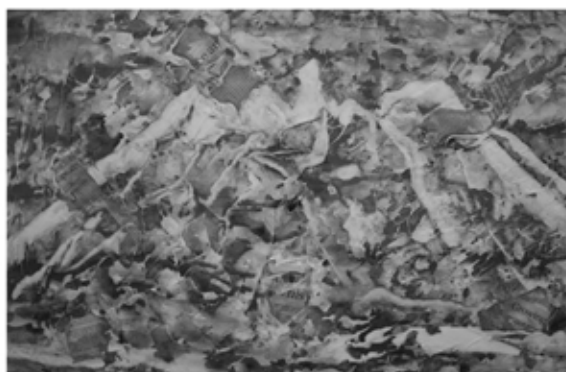
夫婦旅行 作／一村謙三
【部門／洋画】



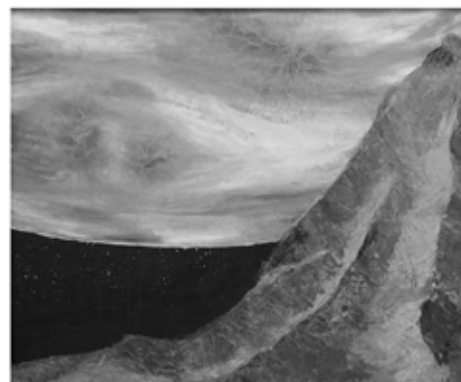
きのう空をみた、あした空になる。
作／キノシタユウスケ
【部門／日本画】



さいきんのじえいけい 作／宮本しおり
【部門／立体】



セビアの根子岳 作／永田順子
【部門／洋画】



地球の裏側 作／梅田みなみ
【部門／洋画】

KUMAMOTO ART PARADE

第26回熊本市民美術展

熊本アートパレード

会期：平成27年2月21日(土)～3月8日(日)
主催：熊本市現代美術館(熊本市・公益財団法人熊本市美術文化振興財団)
協力：コラボレーターの会

審査員
ミヅマアートギャラリー
ディレクター
三瀨末雄



今回のテーマは「私の中の日本、世界の中の日本」としました。外国人がイメージするようなステレオタイプの中の日本だけでなく、自分たち自身の中で自分なりの日本というものを考え、再発見してほしいという気持ちがあり、こういうテーマを設定させてもらいました。熊本市民の皆さん一人一人がどのような「日本」を描かれるのか、とても楽しみです。

テーマ
私の中の日本、世界の中の日本

総出品数
287点

アートパレード大賞 (熊本市賞)

作品講評／三瀨末雄

アートパレード大賞の《恋は無情の種》は、画面の中に色々な世界が隠されており、構図、描かれている要素ともに一筋縄では解釈できません。一つ一つのものの描きこみもしっかりしていますが、そのしっかり描いたものを少し壊していくような黒の用い方もまたおもしろいです。観ている内に不思議な世界にいざなわれるような感覚があり、非凡なものを感じました。



恋は無情の種。
作／鈴木沙彩
〔部門／その他〕

熊本市現代美術館賞



故郷の追憶～熊本県 作／佐伯勝利
〔部門／映像〕

熊本市現代美術館賞の《故郷の追憶～熊本県》は、丹念な取材としっかりした編集で、地元のユニークなお祭りのことがわかりやすくまとめられた映像作品です。熊本の文化的な背景を紹介する映像として、非常に完成度が高いと思いました。

審査員特別賞(三瀨末雄賞)



入れないし、出られない。 作／宮本華子
〔部門／立体〕

三瀨末雄賞の《入れないし、出られない。》は、最初はタイトルにすごく惹かれました。赤と白の犬小屋、ウェディングドレス、そこに縫われた言葉、小屋の中に隠されたものなど、作品の各要素にいろいろな解釈を誘われ、「犬の話?」「いや家の話?」「いや日本の閉塞的な状況を象徴しているのかも?」といった想像がふくらみました。

井手宣通賞

井手宣通賞の《和》は、阿修羅が月面らしき所で地球を背景に立ち、人工衛星も飛んでいるという発想や構図が非常におもしろいです。テーマを自分の中で消化しつつ独自の世界を創り出しています。



和 作／吉川博文
〔部門／洋画〕